

間伐材で池をきれいに
いかだでGO!!



1. 池の中の景を眺めながら



2. 池の土地に下流の川に水を返わせる



3. 間伐材をきれいに洗いながら準備作業



4. 舟の入った池が加齢池と上流のいかだ池に分かれる



5. 植生袋に穴を開けてアサギやハナシヨウブを植える



完成した2号のいかだ

自然の素材で水質浄化

表紙でもご紹介している「いかだ式湖沼浄化システム」。一見難しそうな名前ですが、材料は全て身近にある自然の素材で、間伐材や竹を組んで作ったいかだに木炭を詰め込んだ植生袋を乗せ、アサギやハナシヨウブ等の水生植物を植え付けるといっていいもの。このいかだを湖や池に浮かべると、水生植物が水中の窒素やリンを固定して成長することによる水質浄化作用が期待できるという訳です。また、水生植物の根や木炭が微生物の棲みかとなることから、豊かな生態系を復元する目的もあります。

地域の人手の手で

7月24日、このシステムを考案したNPO法人とよあしはら」の宮林茂章理事長を講師に迎え、臼田町鶴崎公園でいかだ製作講習会が開催されました。集まったのは、切原小学校と中込小学校の子供たち・保護者や地域の方々等。炎天下での開催でしたが、大人も子供も全員で賑やかに作業を進めた結果、約2時間後には予定通り2号のいかだを水面に浮かべることができました。これらのアサギやハナシヨウブが将来しっかりと根を張って、きれいになった水面に生い茂る姿を思い浮かべると、達成感もひとしおです。

身近な資源の活用

今回作ったいかだの材料は、大部分を佐久地域で調達しています。間伐材は県有林の間伐作業で出たものを、木炭の一部は切原小学校の子供たちが学校林で焼いたものを使用しました。つまり、「いかだ式湖沼浄化システム」が広く利用されるようになれば、地域の森林の手入れや利用も進むこととなります。

いかだに植えられた水生植物が生態系の物質循環を活性化して池の水をきれいにするということ、身近な資源の活用が森林の整備につながるということ、物質や資源が「循環」することの重要性を二重の意味で考えさせられる講習会でした。